校 長 室 だ よ り（No.3）

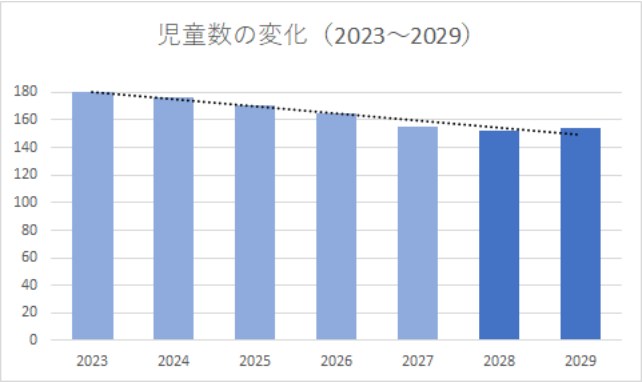
令和５年５月 12 日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

日本の人口は2070年に今の約70％に

日本の総人口は２０７０年に今の約７割の８７００万人にまで減るという推計が公表されました。少子化は加速し、外国人の人口は増加、寿命の伸びで人口減の速度はやや鈍るという試算です。就学前の施設や小学校が大きく影響を受ける年間出生数は、２０３８年に７０万人を割り込み、２０７０年には４５万人まで減るということです。

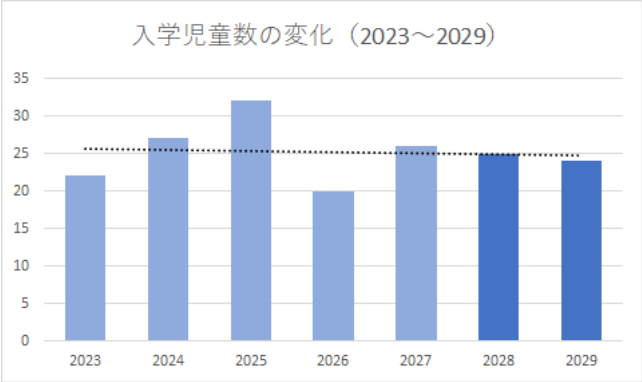
余談ですが、高齢化は、６５歳以上の比率が２０２０年の２８・６％から２０７０年には３８・７％に高まります。年金や医療、介護などの制度を安定させるための負担と給付の見直しは、避けて通れないこととなるそうです。あわせて外国人の増加は、年間約１６万人ペースで増えると見込まれており、２０７０年には今の３・４倍の約９４０万人まで増え、人口の１０分の１が外国人ということとなります。

児童・生徒数の減少に伴い、市内においても学校の適正規模を考え、適正配置が行われている地域もあります。今年度も鴨庄小学校が閉校となり吉見小学校と統合されました。また、中学校では、山南中学校と和田小学校が閉校となり、山南中学校となりました。来年度は、竹田小学校と前山小学校が竹山小学校となる予定です。令和８年度には、三輪小学校が閉校となる予定です。



黒井小校区の子どもたちの数は今後どのように変わっていくのでしょうか。

2023 年度（令和５年度）全校児童は、180 名です。丹波市の年齢別人口統計から考えますと、来年度は 176 名となります。現在生まれている子どもたちで考えて、2029 年には全校児童 154 名と予想されています。2023 年から 2029 年までで、減衰率の平均が 97.3%ですから、このままいきますと 10 年後には、約 160 名の児童数となると予想されます。黒井小学校でも出生数減の影響で緩やかに児童数が減少していくことが予想されています。



ここでは、黒井小学校の校区単位で考えてみましたが、市全体で考えてみますとさらに様々な状況が出てくると思います。子どもたちにとって安全で安心して学べる環境とはどんなものなのか、これからの社会に出ていく子どもたちに必要な力を育む環境づくりをどのようにすすめていけばよいのかを考えていく必要を感じました。